

我が社の事故防止

デジタルタコでランキング付け

点数競い安全水準上げ

中国陸運

中国陸運(西尾義輝社長、広島県廿日市市)は事故防止の一環として、デジタルタコグラフの点数に基づく安全運転ランキングキャンペーンを不定期で行っている。賞品を用意するとともに、個人戦やチーム戦などの形式を採用し、ドライバーが飽きないように工夫。満点が続出するほか平均点も高く、安全レベルの底上げにつながっている。

繁忙期に軽微な事故が重なったのをきっかけに、2017年6月に初めて実施した。広島物流センターをはじめ、県内外の営業所と関連会社を7グループに分け、16日間の対象期間を設定。また、16日間を前・



第1回安全運転ランキングキャンペーンの社内チラシ

後半戦に区切って途中経過を発表し、モチベーションの持続を図った。賞品は、本人だけでなく

後半戦に区切って途中経過を発表し、モチベーションの持続を図った。賞品は、本人だけでなく

クロン式のブランド掃除機を、それぞれ贈呈した。2回目は、19年2月に開催。この時も個人戦で、高級オープンレンジなど豪華な賞品をそろえた。2回とも、優勝者の多くが満点の100点を記録。また、全グループの平均得点も94.95点で、全体的な安全運転レベルの高さを示した。3月には初めて、7グループがそれぞれチームとなるチーム戦を実施。部署を越えた連帯意識を高めるのが狙いで、上位2チームに対し、ドライバーだけでなく管理職や事務職を含む全員に賞金を授与した。西尾社長は「キャンペーン期間中は、3回とも事故ゼロが続いた。また、以前はデジタルタコ点数が80点程度だったドライバーが100点を取ったケースもあり、平均で5、6点は上がっている。商品や賞金にコストが掛かったが、事故処理の負担削減や燃費向上を考えると、費用対効果は十分だ」と話している。(矢野孝明)